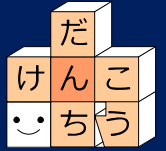


河原町団地に、ロボット出現！！

(健康団地づくりレポート)



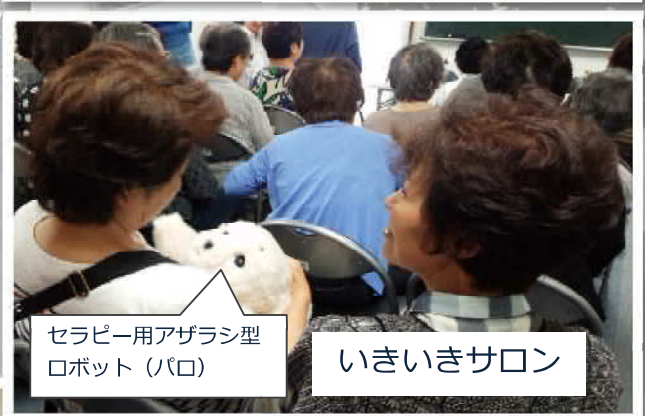
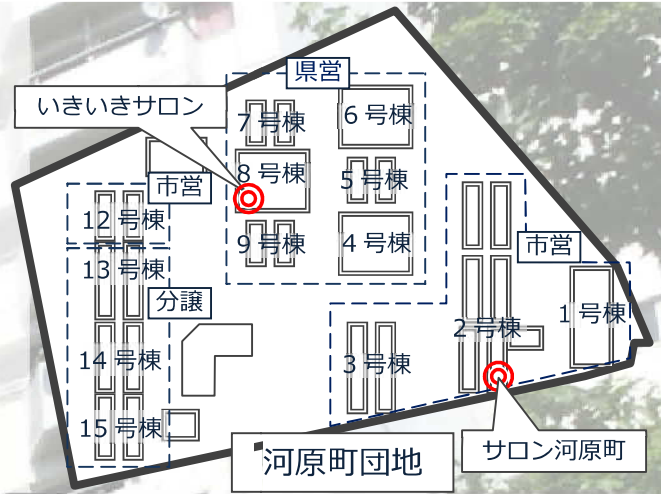
「健康団地づくり」に取り組んでいる県営河原町団地では、これまでも団地内の住户型集会所で、「映画鑑賞会」や「カラオケ大会」などを行う「いきいきサロン」を開催してきました。

同自治会では、活動を更に充実させるため、県と検討(別紙参照)し、「コミュニケーションロボットを活用したサロンづくり」の試みを行っています。

今年の4月と5月に実施した際には、多くの団地住民が参加し、ロボットを中心に語り合う、なごやかな集いの場となりました。

また、この時、参加した河原町地区社会福祉協議会の方からも、同じ敷地内にある市営住宅で行われる同協議会主催の「サロン河原町」でも、同じような試みをしたいという話があり、県が協力して、11月に「ロボット体験会」が実施されました。

今後も、県営団地のみならず、周辺の地域づくりにもつながるような「健康団地づくり」ができればと考えます。



コミュニケーションロボット (パルロ)

いきいきサロン

サロン河原町

セラピー用アザラシ型ロボット (パロ)

サロンづくり(健康団地)におけるロボット活用について

「健康団地の取組み」の一つとして、団地内の空き住戸等を活用して、住民が主体となり運営する、高齢者等の交流の場(サロン)づくりを進めている。この取組みを、さらに効果的に推進するための方策について検討した。

1 サロンづくり

(1) 期待される効果

- ・日常的に集い合い、会話を交わすことを通じて、住民相互の繋がり(連帯感)や安心感が得られるとともに、相互の見守り(安否確認)などの効果が期待できる。
- ・サロンの存在自体が、外出するきっかけになり、歩くことによる健康維持や引きこもりの防止にもつながっていく。



(2) 課題

- ・団地内の住民が運営することから、これまでの人間関係を気にする方や、元々団地内の活動自体に消極的な方などは、サロンを活用することを躊躇するため、固定的な住民の利用にとどまっている傾向がある。

2 解決案

次のような期待される効果を考え、産業振興課や高齢福祉課と連携し、「さがみロボット産業特区」の取組により、商品化された「PALRO (パルロ)」(人工知能を搭載した人型コミュニケーションロボット)を、定期的にサロンに派遣し活動をサポートしてもらうことにより、さらに多くの住民がサロンを活用することとなるように工夫したい。

【期待される効果】

- ・日ごろ、団地自治会活動に興味のない人も、「PALRO」に会えることには興味を示す可能性があること。
- ・同じ団地内住民と話すことが苦手な人も、「PALRO」との会話ならば、サロンに行ってみようと思う人がいるかもしれないこと。

